

函館シネマアイリス 開館 25 周年記念作品  
原作 佐藤泰志

# 草の響き

「海炭市叙景」「そのみにて光輝く」「オーバー・フェンス」「きみの鳥はうたえる」に続く、  
原作・佐藤泰志＝函館発信映画第5弾！！

オール函館ロケ 2021年秋 全国公開予定

☆ 市民発信映画実現のため、みなさんからの募金をお願いいたします ☆



2010年の『海炭市叙景』(熊切和嘉監督)は「函館市民発信映画」として全国でも類のない製作方法が取られました。企画の立ち上げから制作現場でのフォロー及びスタッフとしての参加、主要俳優としての参加。映画制作に関わるすべてのパートを函館の映画館シネマアイリス(代表菅原和博)を中心に市民と協力して行いました。さらに、製作費の大半は市民からの募金及び協賛金で賄われました。本作が「地方発信市民映画」と呼ばれるのはそうした理由からです。

2014年の『そのみにて光輝く』(呉美保監督)は内外で高い評価を得、モントリオール世界映画祭での最優秀監督賞、キネマ旬報でのベストワンをはじめ41の映画賞を受賞し、興行的にも大成功を収めることができました。映画を生み出す街「函館」にこだわり、2016年には佐藤泰志原作映画化の第3弾として、佐藤が函館職業訓練校での日々を送った際の経験をもとに執筆し、自身5回目にして最後の芥川賞候補作品となった『オーバー・フェンス』(山下敦弘監督)を映画化。2018年9月、佐藤泰志が初めて芥川賞候補となった初期の代表作品『きみの鳥はうたえる』を函館シネマアイリスの開館20周年記念作品として公開。2019年ベルリン映画祭フォーラム部門に選出されました。

そして佐藤泰志没後30年に当たる2020年、佐藤泰志映画化作品5作目となる『草の響き』をシネマアイリス25周年記念作品として映画化。心を病み、疲弊していく地方の町に戻ってきた主人公。ひたすら走ることで精神のバランスを保とうとする彼を軸に、「生きることの意味」を模索する若者たちや、淡い夢に希望を託そうとする家族を描く。

原作：「草の響き」佐藤泰志（河出文庫刊）

監督：斎藤久志

企画・製作：函館シネマアイリス